

令和2年10月29日

教育の効果を科学する ーファンタジー世界を子どもたちの教育にー

◆発表のポイント

- ・ぬいぐるみお泊まり会^(注1)に参加した子どもは積極的に絵本を開くようになりました。
- ・ぬいぐるみに励まされる環境があると、必要だった支援の回数が減少しました。
- ・「エビデンスに基づいた教育」で子どもの学力向上・学校の先生の負担軽減に挑戦しています。

教育現場の最前線で奮闘している先生や職員の方々の創意工夫はとても素晴らしく、ぬいぐるみお泊まり会も子どもたちと直接関わっていた図書館の司書たちが考えたアイデアでした。

国内の教育研究の最大の弱点は効果検証です。教育実践のほとんどは効果が不明瞭で、効果を調べていたとしても検証方法の不備で効果を正しく把握することができていませんでした。ぬいぐるみお泊まり会も効果は不明であるにも関わらず浸透し始めていたので、チームを組んで効果を検証してみることにしました。研究を続けた結果、子どもたちの心の中の世界（ファンタジー）を関係づけることが教育に有効であることも少しずつ分かってきました。

■発表内容

<研究内容、業績>

(1) ぬいぐるみお泊まり会に参加した子どもたちは絵本を自分で開くようになる

子どもたちのぬいぐるみを図書館に招待して一晩だけ宿泊してもらい、「ぬいぐるみたちが子どもたちのために選んだ」という設定で絵本を貸し出す企画です。その際、図書館で絵本を読んでいる場面や探している場面を撮影した写真も子どもたちにプレゼントします。(図1)

ぬいぐるみお泊まり会に参加する群と参加しない群に分けて読書活動を調べた結果、ぬいぐるみお泊まり会に参加した子どもたちは、自分から絵本を開くようになっただけでなく、ぬいぐるみに絵本を読み聞かせていました。(図2)

(2) ぬいぐるみに励ましてもらうと、子どもたちはもう少しだけがんばれる

服を着替えることが苦手な子どもに対して、ぬいぐるみがポジティブなフィードバックを送ることが子どもの支援になるか検討しました。本研究は博報堂の協力を得て Pechat（以下ペチャット）を利用しました。ペチャットはボタン型スピーカーとスマートフォン専用のアプリで構成されており、アプリ内で選択・送信した言葉がボタン型スピーカーから発声されます。(図3)

ぬいぐるみを好む子どもを対象にして調査を実施した結果、子どもが苦手に行っている課題に取

PRESS RELEASE

り組む時にペチャットを使ってポジティブなフィードバックを送ると、教員に支援してもらう回数が減少（ひとりで達成できるレベルが上昇する）ようになりました。（図4）

<展望>

教育現場の最前線に立つ先生方の支援につながる研究であることを大切にしています。現在は「エビデンスに基づいた教育・児童生徒の理解」の促進にも力を注いでいます。

何が有効なのか（What works?）を知ることは学校の先生の負担軽減や子どもの学力の向上につながるため、欧米では「エビデンスに基づいた教育」が急速に広がっています。しかし、日本では教育実践とエビデンスを関係づけた議論は極めて少なく、むしろ「エビデンス」という言葉の誤用やエビデンスに対する誤解が多いことに気づきました。そこで、教育とエビデンスに関する建設的な議論の進展を目指して、「エビデンスに基づく教育にどう向き合うか」をテーマにシンポジウムを開催するなど、研究を進めています。

<略歴>

1982年生まれ。広島大学大学院教育学研究科博士課程修了（心理学）。専門は教育心理学・発達心理学。東京大学大学院総合文化研究科にて日本学術振興会特別研究員（PD）を経て、2014年10月から岡山大学教育学研究科に所属。



図1 子どもたちに渡す写真の例

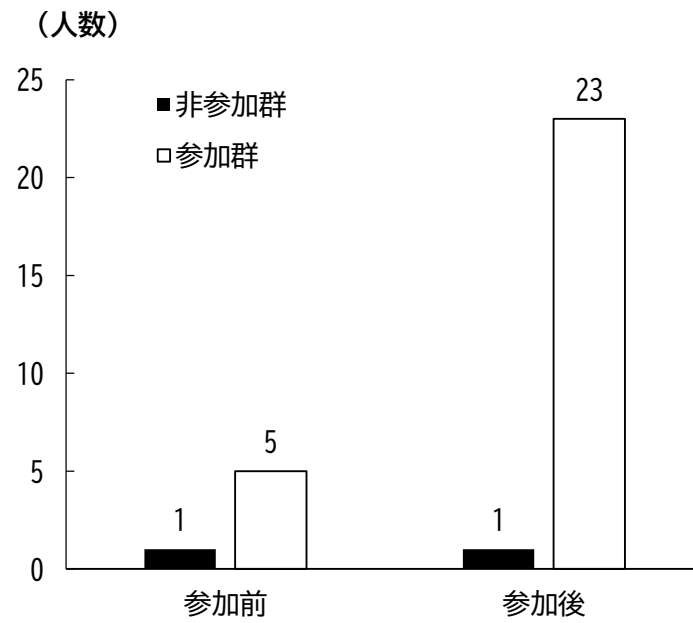


図2 めいぐるみお泊り会の参加前・後における子どもの読書活動



図3 ペチャット

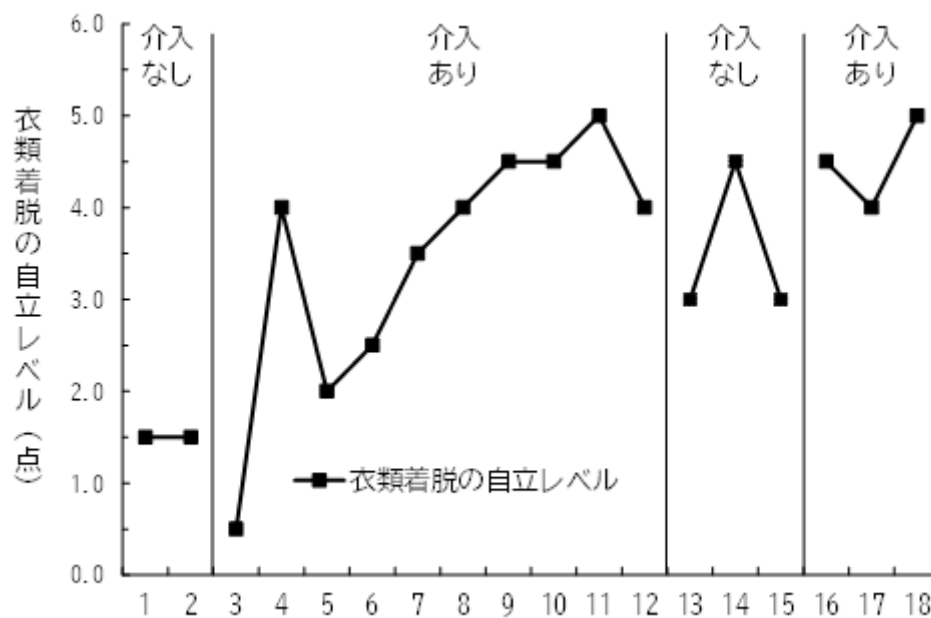


図4 むいぐるみのポジティブなフィードバックが子どもの自立的な行動に与える効果

(注1)ぬいぐるみお泊まり会の実施方法は各図書館によって多少は異なっているが、一般的には、(1)ぬいぐるみと一緒に絵本のお話を聞いてもらい、(2)ぬいぐるみを預かり、(3)閉館後にぬいぐるみが絵本を読んでいる場面の写真を撮影し、(4)後日のぬいぐるみの返却と同時に、(3)で撮影した写真とぬいぐるみが読んでいた絵本を子どもたちに紹介する、という順番で実施されていることが多い。また、絵本を紹介する際、大切にしているぬいぐるみが選んだ絵本であることが子どもに伝えられる。ぬいぐるみお泊まり会の重要な部分は、大切にしているぬいぐるみが絵本を選んでくれたという体験であり、この体験が読書活動の増加につながると期待されている。

<お問い合わせ>

岡山大学大学院教育学研究科

講師 岡崎善弘

(電話番号) 086-251-7713



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY



岡山大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。